

「市政報告とまちづくり懇談会」

市長回答要旨

7月21日(木) 市民会館

※会の中で紹介した意見、市長回答をまとめたものです。市長回答は一部要約しています。

※回答は、市政報告会実施日時点のものであり、現在の状況と異なる場合があります。

番号	1	意見	令和3年生まれの子供は81万人余。合計特殊出生率は1.30。この学年の子たちが全員結婚しても1.3×40万カップル=52万人の出生数。国の行ってきた政策ではほとんど効をなさず少子化がどんどん進んでいます。市が行える事は限られますが、効果のある、具体性のある少子化対策をお持ちでいらっしゃいますか。説明の中であった合計特殊出生率1.8は国が行っている政策ではほぼ不可能と思いますが…。	秘書政策課
	2	意見	少子化対策をどう思っているか	秘書政策課
回答要旨	<p>少子化対策ということですが、本当に危機的な状況だと思っています。</p> <p>国会議員の方々と話をすると多くの方は、価値観の問題だとか、若者の考え方の問題だとか、言われますが、私は経済問題だと思っています。</p> <p>もちろん色々な価値観の変容や、社会の環境の変化など複合的な要因がありますし、特に家庭と仕事等の両立支援もまだまだ不十分で、子どもを育てやすいような国だと、例えば子どもが3歳を超えても例えば小学生中学生ぐらいまでは、午後4時ぐらいになったら帰っていいような国もありますし、そういった点でも、やれることがあるのではないかと考えています。</p> <p>ただ、色々な方に聞いたり、私の実体験から、やはり経済問題が非常に大きいと思っています。わが国は子育てや教育費に占める公的支出の割合が非常に低いです。</p> <p>家庭の責任で、子どものことは、各家庭でやりなさいというところが非常に強い国だと思っています。</p> <p>親が子どもに対して責任を持つ、教育の責任は第一義的には親にあるというのは、教育基本法にも書いてありますので当然です。ただ経済的には、大学まで出ると1000万円とか1500万円かかると言われていますので、子どもがいない方も含めて、子どもにかかる費用を社会全体で負担するのが公平だと、私はずっと思っています。</p> <p>ですから、子どもが1人だろうが2人だろうが10人以上だろうが、「子どもがいることで、新たな負担を家庭に生じさせない」ということを大きな柱にすると国が宣言する必要があると思います。</p> <p>フランスが少子化を食い止めたときの、三原則の第1に、子どもを産み育てることでの、家庭の可処分所得を減らさないということを国が宣言したということがありますので、私としては細かい話よりも国がまず、子どもを育てることについての経済的な負担をすべて社会で等しく負担をするということを宣言することが一番大事ではないかと考えています。</p> <p>国としては、ようやく高等教育までの無償化ということができましたが、まだまだそれでは不十分で、大学教育も含めて、そして、所得制限なしで国が宣言をしていく必要があるのではないかと考えています。所得制限なしで教育費はすべて国がみていくというぐらいのことを言わないと、3人目をどうしようかと考える時に、躊躇するというご家庭はまだ多いのではないかと考えています。</p>			

番号	2	意見	<p>小牧市はかつて企業誘致に成功し、豊かな市となりましたが、大企業の転出等が有り将来にわたって豊かな現状を維持できるとはかぎりません。今後は新産業の創出や、若い起業家の育成に力を入れるべきと考えます。</p>	<p>商工振興課・企業立地・次世代産業推進課</p>
回答要旨	<p>おかげさまで、小牧は産業都市ということで発展をして参りました。伊勢湾台風を契機に、多くの名古屋の臨海部の企業さんが内陸の小牧に移ってこられたりする中で、企業誘致制度を作って、先人が本当にご努力されて今日の産業都市小牧を作ってこられたと思っています。</p> <p>まさに今、そうした企業さんたちが発展していく中で、工場が老朽化し、手狭になり、小牧の外に展開をされていくということが心配されるわけでありまして、小牧の地で末永く操業していただくということが大事なということで、様々な工場立地等の支援制度をやって参りました。</p> <p>起業という話もありましたが、新たな業を起こすという意味で、起業などの支援というのは非常に重要だと思っております。今、地元の金融機関や様々な機関と一緒に起業家支援も取り組んでいます。</p> <p>ただ、それと同様に、今頑張っている地元の中小企業などが、新たな事業・成長分野にチャレンジすることについても、小牧として支援がしていけないかという思いの中で各種支援制度を作っているところでありますので、産業界の皆さん方のご意見も伺いながら、少しでも有効な市としての取り組みにつなげていきたいと思っています。</p> <p>まさに今、新たな産業振興制度を議論していますので、ぜひ皆さんのお知恵もお借りしながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>			

番号	3	意見	<p>いつも小牧市民のために動いていただきありがとうございます。これからの住みやすい街づくり、こまきこども未来館、中央図書館、予防接種の普及もありうれしく思っています。現在、16才と18才の男女が居ますが、不登校や発達障害のグレーゾーンの子供の相談をする場所、心のよりどころを少なく感じました。中学校から18才くらいまでの専門窓口、特に障害者の認定も受けていない子供たちの支援などの声を聞いて進めてほしいです。コロナ過もっとさまざまな状況でお忙しいとは思いますが、検討の程よろしくお願いたします。</p>	<p>子育て世代包括支援センター</p>
回答要旨	<p>行政として最も大事な仕事というのは弱者の支援、本当にお困りの方をどう支えるかということだと思っています。</p> <p>そういう意味でも、そうした声に耳を傾けることができる、またそういった方々に寄り添った支援ができる、そういった体制は非常に重要だと思っています。</p> <p>小牧市には、こども未来館の隣に、子育て世代包括支援センターがあります。そこに、保健師や保育士など様々な専門家を配置しており、妊娠期からの子育て中の様々な支援を、切れ目なくしていきたいと思っておりますので、まずは子育て世代包括支援センターにご相談いただければと思います。</p> <p>皆さん方、色々な悩みがあると思っておりますので、専門家や機関につなげていくということが必要だと思っておりますが、気軽に相談できる体制ということで、学校や児童館など様々ありますが、どこに行ったらいいかわからないということであれば、まずはこまきこども未来館の隣にある子育て世代包括支援センターにお尋ねいただいて、気軽にご相談いただければと思います。</p>			